

# 第2回西条市使用料等審議会資料

## 〔目次〕

1	水道料金改定概要について	
(1)	水道事業会計財政収支の見通し	1 P
(2)	水道施設の更新需要推計	2 P
(3)	料金改定基本方針（案）	3 P
2	水道料金改定素案【地区別】について	
(1)	西条地区改定案	4 P
(2)	東予地区改定案	5 P
3	水道料金改定素案【4地区全体】について	
(1)	各地区案の内訳	6 P
(2)	各地区案の組み合わせ	6 P
4	水道料金統一プランについて	
(1)	料金統一に向けた基本的な考え方	7 P
(2)	平成33年度統一（素案）	7 P

平成29年7月28日

上下水道部水道業務課

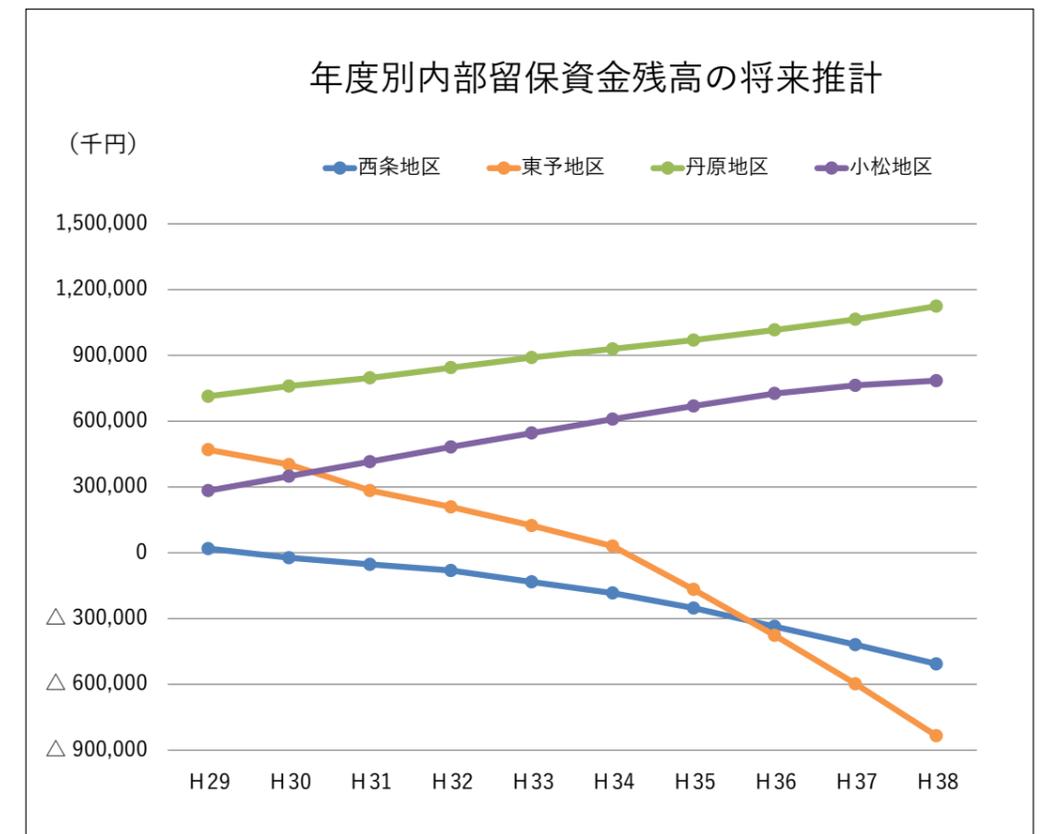
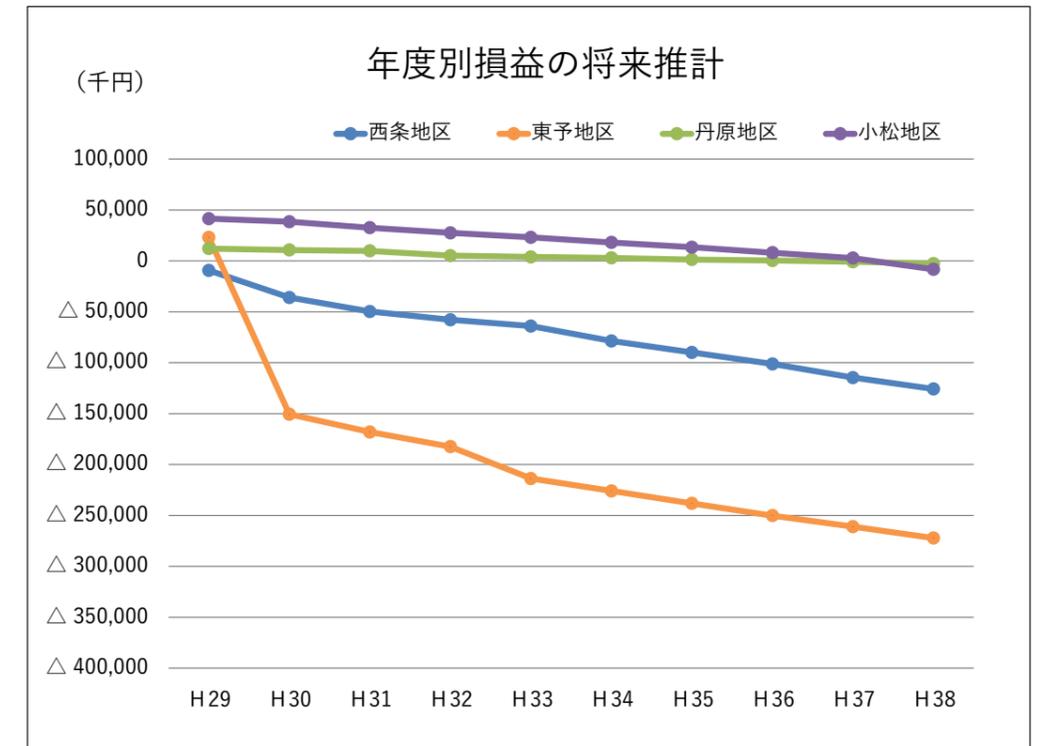
# 1 水道料金改定概要について

## (1) 水道事業会計財政収支の見通し（前提：法定耐用年数で施設を更新、料金据置）

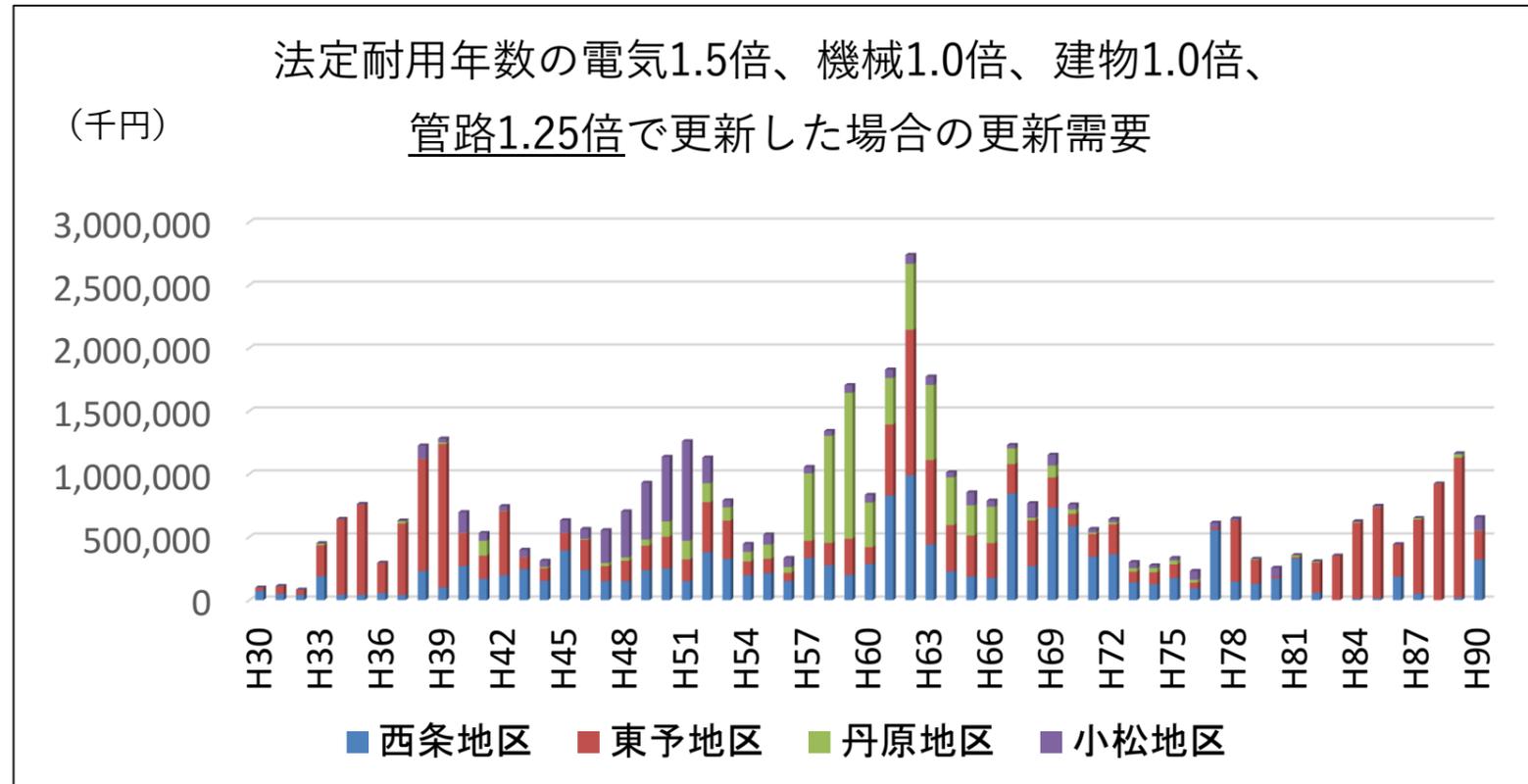
※法定耐用年数・・・電気設備20年、機械設備15年、建物50年、管路40年

(単位:千円)

地区	項目	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	
		収益										
西条地区	収益の収入	234,171	233,235	232,303	231,080	229,864	228,655	227,454	226,261	224,845	223,440	
	収益の支出	243,492	269,164	282,024	288,879	293,869	307,325	317,411	327,446	339,485	349,178	
	純利益(△は損失)	△ 9,321	△ 35,929	△ 49,721	△ 57,799	△ 64,005	△ 78,670	△ 89,957	△ 101,185	△ 114,640	△ 125,738	
	利益剰余金(△は欠損金)	△ 187,087	△ 223,016	△ 272,737	△ 330,536	△ 394,542	△ 473,212	△ 563,168	△ 664,354	△ 778,994	△ 904,732	
	資本											
	資本の収入	98,236	268,214	118,726	72,038	272,951	185,246	190,046	243,946	185,246	185,746	
	資本の支出	213,646	389,544	226,213	176,589	402,060	310,453	331,820	399,888	338,788	342,380	
	資本の支出不足額①	△ 115,410	△ 121,330	△ 107,487	△ 104,551	△ 129,109	△ 125,207	△ 141,774	△ 155,942	△ 153,542	△ 156,634	
	前年度末内部留保資金残高②	49,220	19,078	△ 22,976	△ 53,178	△ 80,873	△ 132,979	△ 183,558	△ 252,049	△ 335,861	△ 419,156	
	損益勘定留保資金③	85,268	79,275	77,285	76,856	77,003	74,628	73,283	72,129	70,247	69,090	
当年度末内部留保資金残高=①+②+③	19,078	△ 22,976	△ 53,178	△ 80,873	△ 132,979	△ 183,558	△ 252,049	△ 335,861	△ 419,156	△ 506,700		
東予地区	収益の収入	340,357	338,411	336,604	334,658	332,573	330,349	328,264	326,179	324,094	321,731	
	収益の支出	317,223	489,033	504,635	517,133	546,347	556,271	566,444	576,374	585,116	593,948	
	純利益(△は損失)	23,134	△ 150,622	△ 168,031	△ 182,475	△ 213,774	△ 225,922	△ 238,180	△ 250,195	△ 261,022	△ 272,217	
	利益剰余金(△は欠損金)	230,665	80,043	△ 87,988	△ 270,463	△ 484,237	△ 710,159	△ 948,339	△ 1,198,534	△ 1,459,556	△ 1,731,773	
	資本											
	資本の収入	61,132	504,232	891,532	442,432	447,832	481,532	457,132	461,332	497,032	457,632	
	資本の支出	299,355	709,510	1,144,500	648,708	657,226	697,767	775,001	790,235	837,755	813,612	
	資本の支出不足額①	△ 238,223	△ 205,278	△ 252,968	△ 206,276	△ 209,394	△ 216,235	△ 317,869	△ 328,903	△ 340,723	△ 355,980	
	前年度末内部留保資金残高②	518,336	469,718	402,098	283,482	209,083	123,923	29,968	△ 167,503	△ 376,609	△ 597,701	
	損益勘定留保資金③	189,605	137,658	134,352	131,877	124,234	122,280	120,398	119,797	119,631	119,228	
当年度末内部留保資金残高=①+②+③	469,718	402,098	283,482	209,083	123,923	29,968	△ 167,503	△ 376,609	△ 597,701	△ 834,453		
丹原地区	収益の収入	148,143	147,392	146,791	146,039	145,137	144,386	143,484	142,732	141,981	141,079	
	収益の支出	136,068	136,694	137,008	140,859	141,200	141,463	142,098	142,356	142,812	143,761	
	純利益(△は損失)	12,075	10,698	9,783	5,180	3,937	2,923	1,386	376	△ 831	△ 2,682	
	利益剰余金(△は欠損金)	212,688	223,386	233,169	238,349	242,286	245,209	246,595	246,971	246,140	243,458	
	資本											
	資本の収入	71,247	56,362	146,144	60,360	58,809	63,827	55,725	54,175	61,352	52,288	
	資本の支出	119,191	85,165	185,503	90,160	90,303	103,210	95,211	89,014	94,758	75,086	
	資本の支出不足額①	△ 47,944	△ 28,803	△ 39,359	△ 29,800	△ 31,494	△ 39,383	△ 39,486	△ 34,839	△ 33,406	△ 22,798	
	前年度末内部留保資金残高②	687,019	713,365	759,886	797,132	843,990	890,127	929,522	969,700	1,015,676	1,064,182	
	損益勘定留保資金③	74,290	75,324	76,605	76,658	77,631	78,778	79,664	80,815	81,912	82,742	
当年度末内部留保資金残高=①+②+③	713,365	759,886	797,132	843,990	890,127	929,522	969,700	1,015,676	1,064,182	1,124,126		
小松地区	収益の収入	146,139	145,313	144,488	143,662	142,672	141,846	140,855	140,030	139,039	138,214	
	収益の支出	104,615	106,847	111,937	116,126	119,571	123,760	127,385	131,949	136,253	146,471	
	純利益(△は損失)	41,524	38,466	32,551	27,536	23,101	18,086	13,470	8,081	2,786	△ 8,257	
	利益剰余金(△は欠損金)	276,179	314,645	347,196	374,732	397,833	415,919	429,389	437,470	440,256	431,999	
	資本											
	資本の収入	24,654	72,300	50,000	31,500	50,400	36,300	60,400	54,700	207,400	312,500	
	資本の支出	45,300	79,815	55,427	34,885	55,908	40,262	66,998	62,418	233,380	351,099	
	資本の支出不足額①	△ 20,646	△ 7,515	△ 5,427	△ 3,385	△ 5,508	△ 3,962	△ 6,598	△ 7,718	△ 25,980	△ 38,599	
	前年度末内部留保資金残高②	229,146	282,844	348,847	415,234	482,241	545,769	609,432	669,056	726,052	763,215	
	損益勘定留保資金③	74,344	73,518	71,814	70,392	69,036	67,625	66,222	64,714	63,143	60,064	
当年度末内部留保資金残高=①+②+③	282,844	348,847	415,234	482,241	545,769	609,432	669,056	726,052	763,215	784,680		

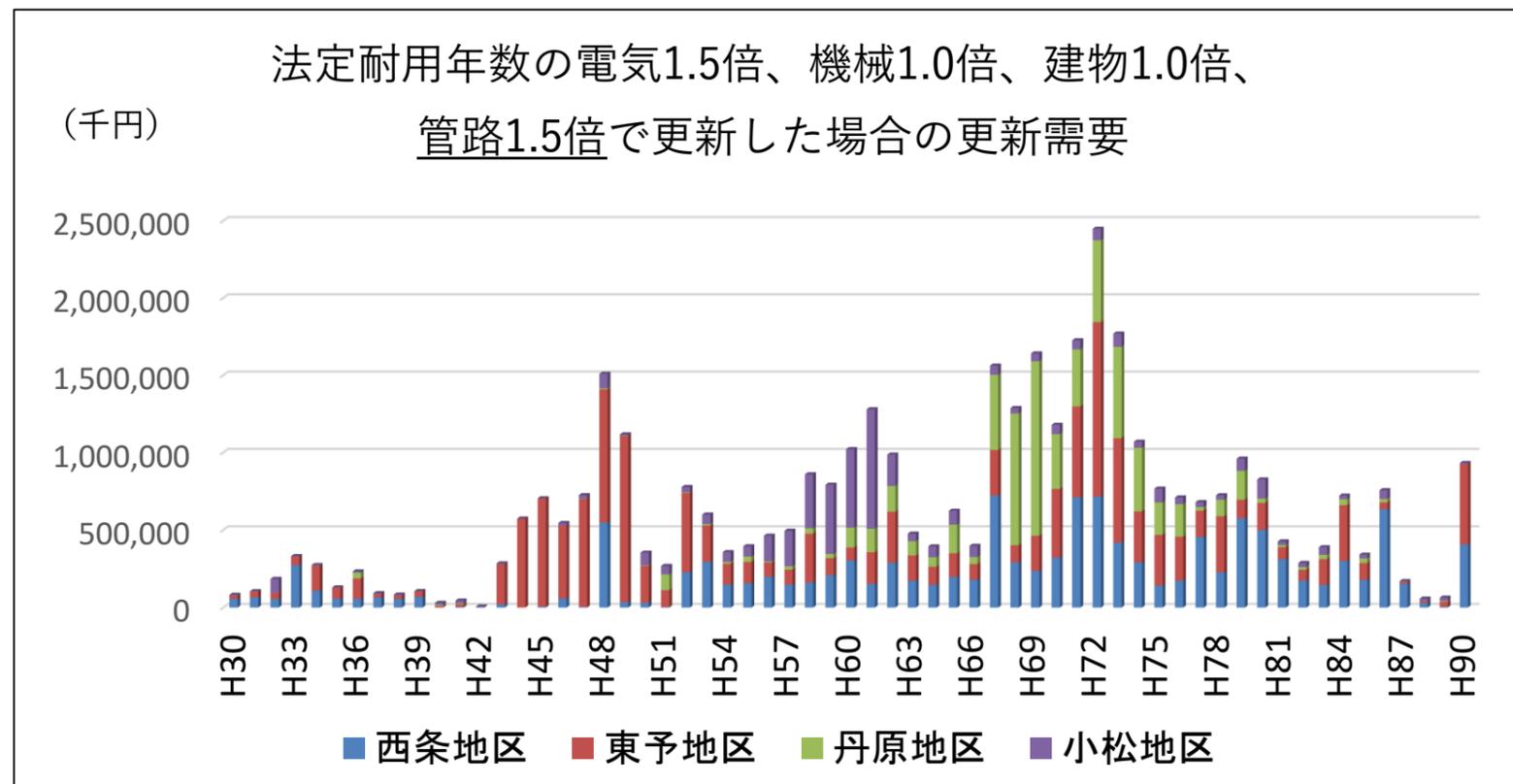


## (2) 水道施設の更新需要推計



○管路を1.25倍で更新

管路の更新を法定耐用年数（40年）の1.25倍（50年）とした場合、H90年までの更新費用は総額約455億円、1年あたりの平均額は約7億5,000万円となる。更新のピークはH62年に到来し、単年度で約27億円の更新費用が必要となる。



○管路を1.5倍で更新

管路の更新を法定耐用年数（40年）の1.5倍（60年）とした場合、H90年までの更新費用は総額約392億円、1年あたりの平均額は約6億4,000万円となる。更新のピークはH72年に到来し、単年度で約24億円の更新費用が必要となる。

### (3) 料金改定基本方針 (案)

#### ① 4地区の料金改定基本方針 (案)

- ア 料金算定期間については、概ね3年から5年を基準としていることから、今回の料金算定期間は基準内である3年間（H30年度～H32年度）とし、引き続き3年ごとの料金見直しを基本として検討する。
- イ 財政収支の将来推計に当たり、国立社会保障・人口問題研究所の西条市における将来推計人口を基に給水人口は減少するものと見込み、有収水量も減少することを前提としている。
- ウ 西条地区の赤字を解消し、4地区の黒字を確保するとともに料金格差を縮減する改定を行う。ただし、丹原・小松地区については料金を据え置くこととする。
- エ 今後3年間で施設を法定耐用年数のおり更新した場合、西条地区については約36%、東予地区については約67%の料金値上げが必要となり、また、管路を実耐用年数の1.5倍で更新した場合、西条地区は約26%、東予地区は約11%の料金値上げが必要となることから、水道使用者の急激な負担増を避けるため、これらの更新費用を料金に反映させるのは平成33年度以降とし、それまでの間は経営状況に見合った設備更新を行うこととする。
- オ 超過料金については、1m<sup>3</sup>当たり150円を上限とする。現状で150円を超えている場合は、据え置きとする。
- カ 西条地区の簡易水道（港新地地区、中野地区）及び丹原地区簡易水道事業については、上水道事業と同じ料金のため、水道事業の料金改定に併せて改定する必要がある。

#### ②-1 西条地区の必要改定率

ア 西条地区収益的収支の損益計算（料金据置時の試算）

(単位:千円)

地区	項目	H28年度 実績	H30年度 見込 法定耐用年数で更新
西条地区	収益	235,113	233,235
	給水収益	200,155	198,278
	その他収益	34,958	34,957
	費用	238,419	269,164
	差引(赤字額)	△ 3,306	△ 35,929
	必要改定率	1.7%	18.1%

※必要改定率：赤字が出ない最低限の平均改定率

$$(\text{必要改定率}) = \{ - (\text{赤字額}) \div (\text{給水収益}) \} \times 100$$

イ 西条地区内部留保資金の残高（料金据置時の試算）

(単位:千円)

H28年度末 実績	H30年度末 見込	減少額	年間平均減少額	必要改定率
49,220	△ 22,976	△ 72,196	△ 36,098	18.2%

※必要改定率：資金が減少しない最低限の平均改定率

$$(\text{必要改定率}) = \{ - (\text{平均減少額}) \div (\text{H30給水収益 (据置)}) \} \times 100$$

#### ②-2 西条地区の基本方針 (案)

- ア 西条地区については、建設改良費を過去の実績に基づき設定した財政シミュレーションを用いて料金設定を行うこととする。
- イ 今回の改定については、必要改定率までの値上げを行うと水道使用者の急激な負担増となることから、赤字を解消しつつ段階的な値上げとする。
- ウ メーター使用料については、平成27年度改定時に4地区の統一を図ったため、今回の改定では、据置くこととする。

#### ③-1 東予地区の必要改定率

ア 家庭用口径13mmで月20m<sup>3</sup>使用した場合の水道料金（料金据置時）  
(単位:円)

	東予地区	丹原・小松地区	差引
13mm、20m <sup>3</sup>	2,419	2,840	421

イ 格差を是正するための必要改定率（丹原・小松地区の料金水準とした場合の改定率）  
(単位:千円)

	H30年度 (据置)	H30年度 (改定)	差引	改定率
東予地区	297,084	328,649	31,565	10.6%

※必要改定率：丹原・小松地区の料金水準まで値上げする場合の改定率

$$(\text{必要改定率}) = \{ (\text{差引額}) \div (\text{H30給水収益 (据置)}) \} \times 100$$

#### ③-2 東予地区の基本方針 (案)

- ア 東予地区については、丹原・小松地区の料金水準へ段階的に近づける改定を行う。
- イ 内部留保資金は、平成28年度決算時に約5億1,800万円留保しており、直ちに資金不足に陥ることはないが、過去5年間で約8,500万円減少していることから、資金の現状を維持することも含めた改定を行う。
- ウ メーター使用料については、平成27年度改定時に4地区の統一を図ったため、今回の改定では、据置くこととする。

## 2 水道料金改定素案【地区別】について

### (1) 西条地区改定案

- ① A案: 赤字解消案(値上げ幅小) 平均改定率 10.3%  
 B案: 赤字解消案(値上げ幅中) 平均改定率 11.3%  
 C案: 赤字解消案(値上げ幅大) 平均改定率 12.7%

ア A案 20,457,388円 増額

水道料金表	基本料金		従量料金			
	種類	金額(円)		段階区分	1m <sup>3</sup> につき(円)	
		現行	改定A案		現行	改定A案
専用給水装置	750	900	1~10m <sup>3</sup>	0	0	
			11~25m <sup>3</sup>	125	140	
			26~50m <sup>3</sup>	140	150	
			51m <sup>3</sup> ~	150	150	
共用給水装置	610	610	1~10m <sup>3</sup>	0	0	
			11~25m <sup>3</sup>	90	100	
			26~50m <sup>3</sup>	110	120	
			51m <sup>3</sup> ~	120	130	

イ B案 22,599,405円 増額

水道料金表	基本料金		従量料金			
	種類	金額(円)		段階区分	1m <sup>3</sup> につき(円)	
		現行	改定B案		現行	改定B案
専用給水装置	750	860	1~10m <sup>3</sup>	0	0	
			11~25m <sup>3</sup>	125	150	
			26~50m <sup>3</sup>	140	150	
			51m <sup>3</sup> ~	150	150	
共用給水装置	610	610	1~10m <sup>3</sup>	0	0	
			11~25m <sup>3</sup>	90	100	
			26~50m <sup>3</sup>	110	120	
			51m <sup>3</sup> ~	120	130	

ウ C案 25,362,431円 増額

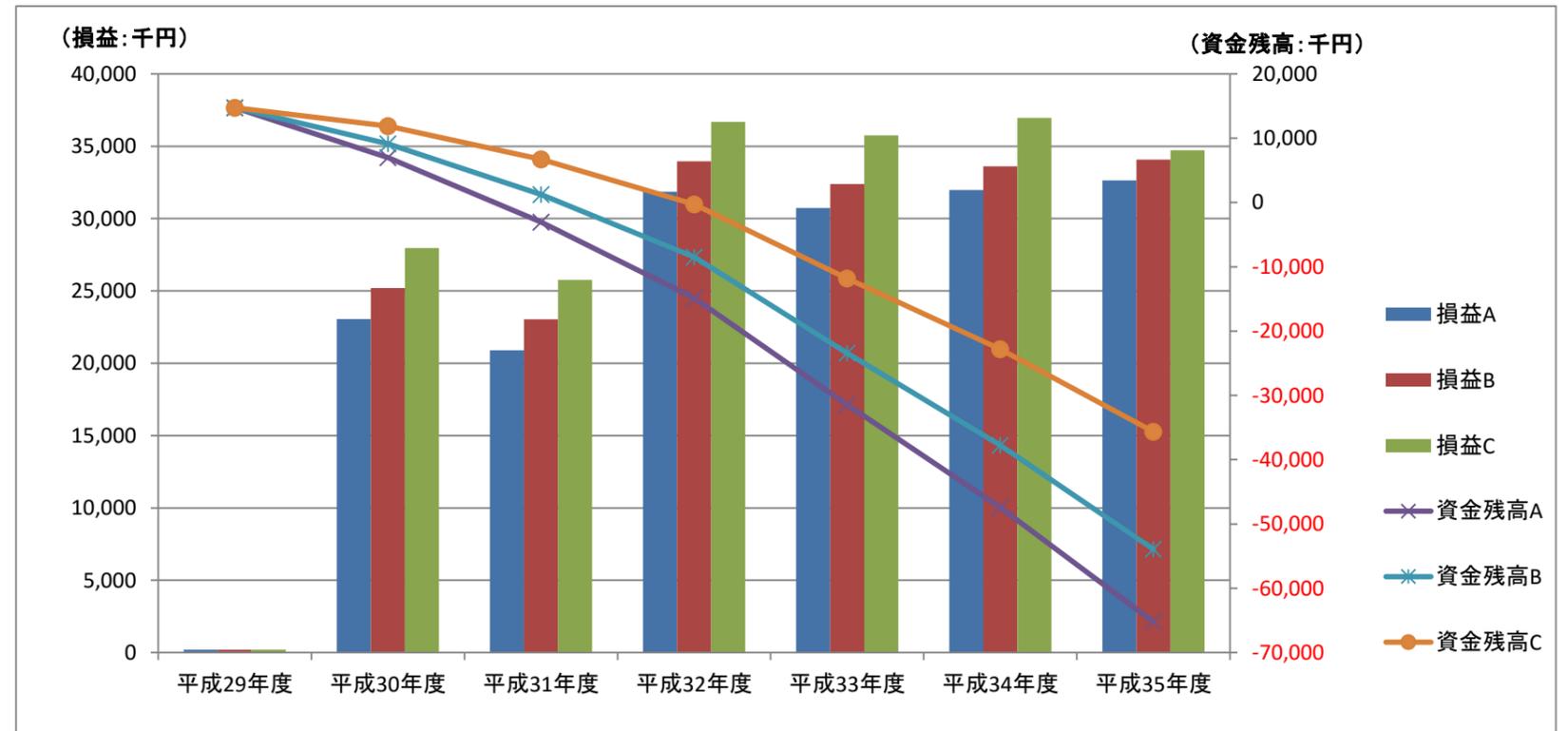
水道料金表	基本料金		従量料金			
	種類	金額(円)		段階区分	1m <sup>3</sup> につき(円)	
		現行	改定C案		現行	改定C案
専用給水装置	750	900	1~10m <sup>3</sup>	0	0	
			11~25m <sup>3</sup>	125	150	
			26~50m <sup>3</sup>	140	150	
			51m <sup>3</sup> ~	150	150	
共用給水装置	610	610	1~10m <sup>3</sup>	0	0	
			11~25m <sup>3</sup>	90	100	
			26~50m <sup>3</sup>	110	120	
			51m <sup>3</sup> ~	120	130	

- ②平均改定率=(新料金収入÷現料金収入-1)×100(%) ③平成30年度料金収入試算 (単位:円)

西条地区	改定案A	改定案B	改定案C
全体	10.3	11.3	12.7
専用給水装置	10.4	11.5	13.0
13mm	12.1	13.4	15.1
20mm	4.2	4.6	5.1
25mm	1.5	1.7	1.9
30mm	0.9	1.1	1.2
40mm	0.7	0.8	0.9
50mm	0.8	1.0	1.0
75mm	1.5	1.6	1.8
共用給水装置	7.8	7.8	7.8
13mm	7.8	7.8	7.8
20mm	7.8	7.8	7.8
25mm	7.8	7.8	7.8
30mm	7.8	7.8	7.8
40mm	7.8	7.8	7.8
50mm	7.2	7.2	7.2
100mm	7.8	7.8	7.8

西条地区	現料金	改定案A	改定案B	改定案C
全体	199,293,670	219,751,058	221,893,075	224,656,101
専用給水装置	189,708,901	209,420,162	211,562,179	214,325,205
13mm	158,454,555	177,641,516	179,714,043	182,424,753
20mm	6,154,874	6,411,138	6,440,357	6,469,805
25mm	8,885,038	9,018,740	9,038,215	9,050,321
30mm	4,498,485	4,540,696	4,547,110	4,550,697
40mm	5,716,023	5,756,072	5,762,720	5,765,858
50mm	5,773,089	5,821,707	5,829,329	5,832,917
75mm	226,837	230,293	230,405	230,854
共用給水装置	9,584,769	10,330,896	10,330,896	10,330,896
13mm	478,327	515,805	515,805	515,805
20mm	743,671	801,461	801,461	801,461
25mm	490,614	528,906	528,906	528,906
30mm	528,507	569,688	569,688	569,688
40mm	2,698,576	2,909,189	2,909,189	2,909,189
50mm	166,876	178,908	178,908	178,908
100mm	4,478,198	4,826,939	4,826,939	4,826,939

#### ④改定案別損益及び資金残高の推計



## (2) 東予地区改定案

- ① A案: 料金格差是正案(値上げ幅小) 平均改定率 3.8%  
 B案: 料金格差是正案(値上げ幅中) 平均改定率 4.7%  
 C案: 料金格差是正案(値上げ幅大) 平均改定率 5.1%

ア A案 11,325,444円 増額

用途	基本料金		段階区分	従量料金	
	金額(円)			1m <sup>3</sup> につき(円)	
	現行	改定A案		現行	改定A案
家庭用	860	860	1~10m <sup>3</sup>	0	0
			11~20m <sup>3</sup>	130	150
			21~30m <sup>3</sup>	145	150
			31~40m <sup>3</sup>	145	150
			41m <sup>3</sup> ~	150	150
団体用	2,300	2,500	1~20m <sup>3</sup>	0	0
			21~30m <sup>3</sup>	150	150
			31m <sup>3</sup> ~	150	150
営業用	2,300	2,500	1~20m <sup>3</sup>	0	0
			21~30m <sup>3</sup>	150	150
			31m <sup>3</sup> ~	150	150
湯屋用	10,350	11,380	1~100m <sup>3</sup>	0	0
			101m <sup>3</sup> ~	150	150
工場用	13,225	14,500	1~100m <sup>3</sup>	0	0
			101m <sup>3</sup> ~	150	150
船舶用	160	160	1m <sup>3</sup>	0	0
			2m <sup>3</sup> ~	160	160
臨時用	2,000	2,200	1~10m <sup>3</sup>	0	0
			11m <sup>3</sup> ~	200	200

ウ C案 15,232,224円 増額

用途	基本料金		段階区分	従量料金	
	金額(円)			1m <sup>3</sup> につき(円)	
	現行	改定C案		現行	改定C案
家庭用	860	900	1~10m <sup>3</sup>	0	0
			11~20m <sup>3</sup>	130	150
			21~30m <sup>3</sup>	145	150
			31~40m <sup>3</sup>	145	150
			41m <sup>3</sup> ~	150	150
団体用	2,300	2,500	1~20m <sup>3</sup>	0	0
			21~30m <sup>3</sup>	150	150
			31m <sup>3</sup> ~	150	150
営業用	2,300	2,500	1~20m <sup>3</sup>	0	0
			21~30m <sup>3</sup>	150	150
			31m <sup>3</sup> ~	150	150
湯屋用	10,350	11,380	1~100m <sup>3</sup>	0	0
			101m <sup>3</sup> ~	150	150
工場用	13,225	14,500	1~100m <sup>3</sup>	0	0
			101m <sup>3</sup> ~	150	150
船舶用	160	160	1m <sup>3</sup>	0	0
			2m <sup>3</sup> ~	160	160
臨時用	2,000	2,200	1~10m <sup>3</sup>	0	0
			11m <sup>3</sup> ~	200	200

②平均改定率=(新料金収入÷現料金収入-1)×100%  
(単位:%)

東予地区	A案	B案	C案
全体	3.8	4.7	5.1
家庭用	5.1	7.1	7.1
団体用	1.0	0.0	1.0
営業用	1.5	0.0	1.5
湯屋用	1.1	0.0	1.1
工場用	0.5	0.0	0.5
臨時用	9.3	0.0	9.3

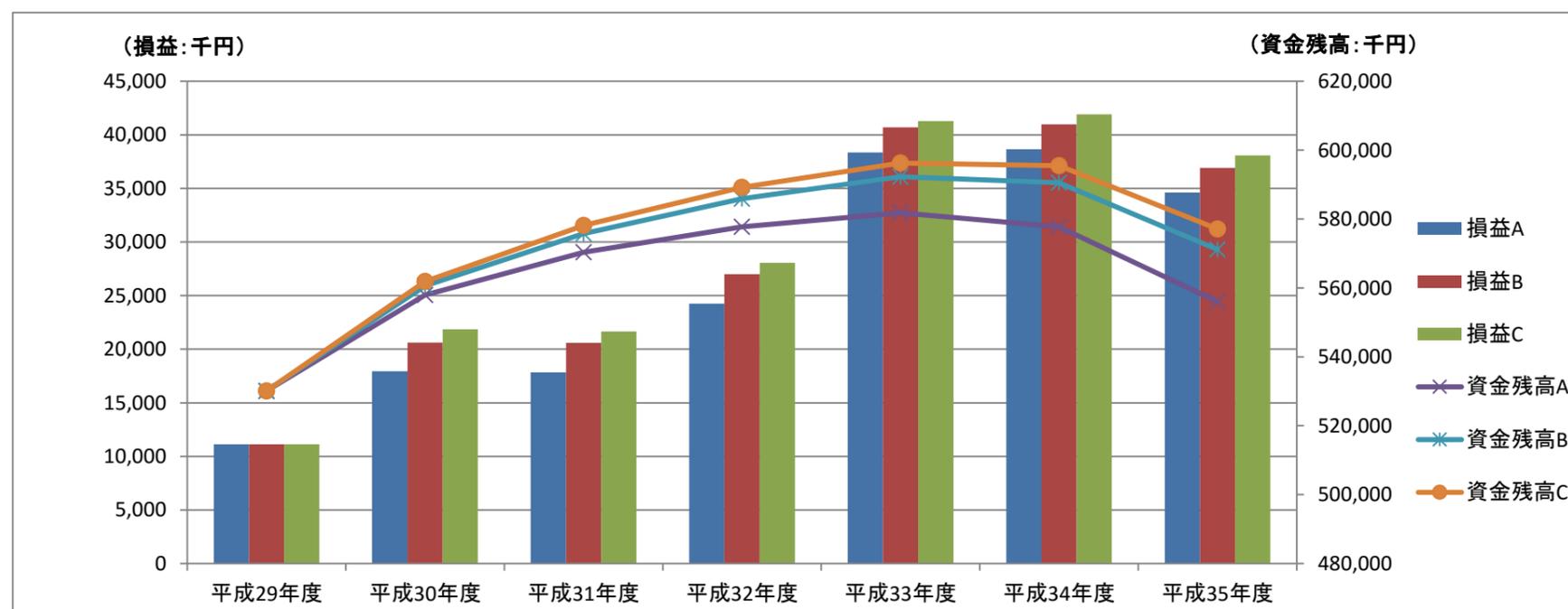
③平成30年度料金収入試算

東予地区	現料金	A案	B案	C案
全体	297,084,031	308,409,475	311,060,841	312,316,255
家庭用	197,699,278	207,769,308	211,676,088	211,676,088
団体用	43,791,252	44,241,940	43,791,252	44,241,940
営業用	36,945,785	37,512,709	36,945,785	37,512,709
湯屋用	5,565,821	5,628,077	5,565,821	5,628,077
工場用	11,040,838	11,100,124	11,040,838	11,100,124
臨時用	2,041,057	2,157,317	2,041,057	2,157,317

イ B案 13,976,810円 増額

用途	基本料金		段階区分	従量料金	
	金額(円)			1m <sup>3</sup> につき(円)	
	現行	改定B案		現行	改定B案
家庭用	860	900	1~10m <sup>3</sup>	0	0
			11~20m <sup>3</sup>	130	150
			21~30m <sup>3</sup>	145	150
			31~40m <sup>3</sup>	145	150
			41m <sup>3</sup> ~	150	150
団体用	2,300	2,300	1~20m <sup>3</sup>	0	0
			21~30m <sup>3</sup>	150	150
			31m <sup>3</sup> ~	150	150
営業用	2,300	2,300	1~20m <sup>3</sup>	0	0
			21~30m <sup>3</sup>	150	150
			31m <sup>3</sup> ~	150	150
湯屋用	10,350	10,350	1~100m <sup>3</sup>	0	0
			101m <sup>3</sup> ~	150	150
工場用	13,225	13,225	1~100m <sup>3</sup>	0	0
			101m <sup>3</sup> ~	150	150
船舶用	160	160	1m <sup>3</sup>	0	0
			2m <sup>3</sup> ~	160	160
臨時用	2,000	2,000	1~10m <sup>3</sup>	0	0
			11m <sup>3</sup> ~	200	200

④改定案別損益及び資金残高の推計



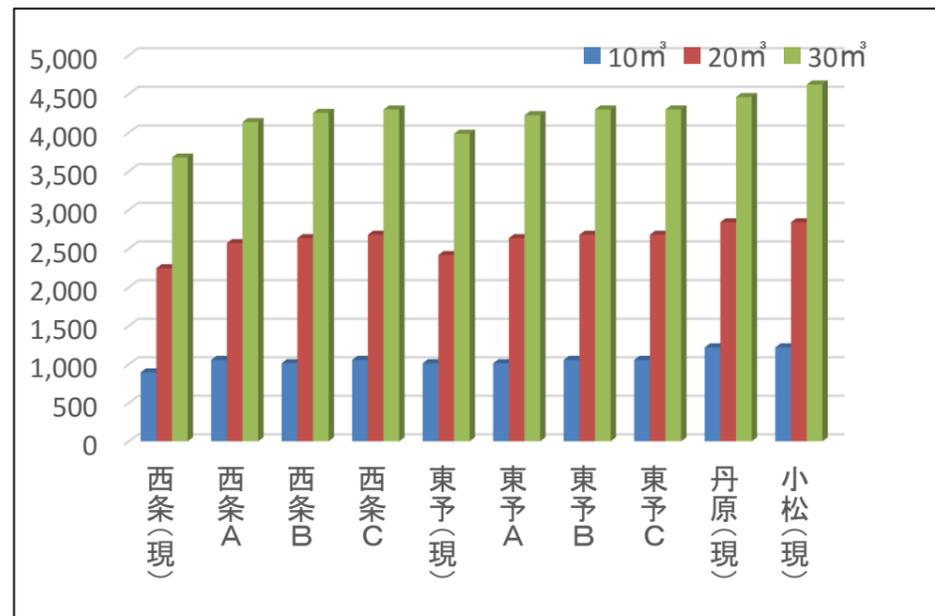
### 3 水道料金改定素案【4地区全体】について

#### (1) 各地区案の内訳

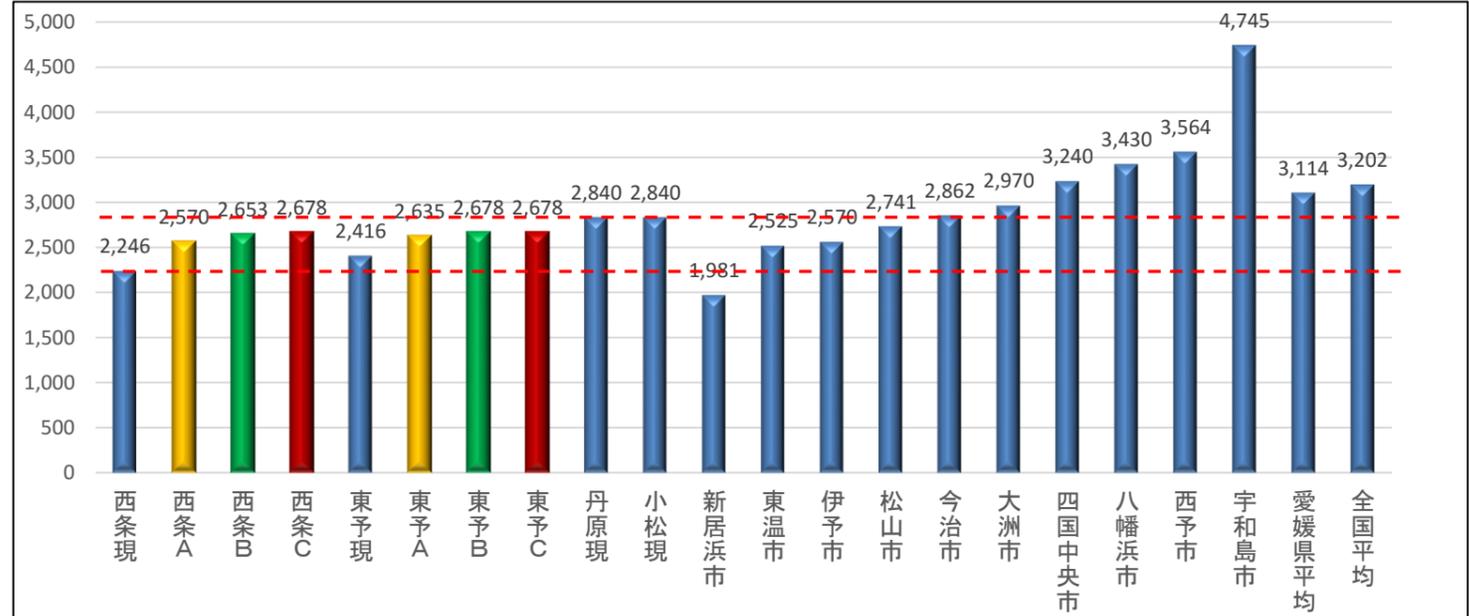
(単位：%、円)

地区	改定案	改定率	増加額	家庭用13mm、1箇月料金(税込)								
				10m <sup>3</sup> 使用			20m <sup>3</sup> 使用			30m <sup>3</sup> 使用		
				現料金	改定案	増加額	現料金	改定案	増加額	現料金	改定案	増加額
西条地区	A案	10.3	20,457,388	896	1,058	162	2,246	2,570	324	3,677	4,136	459
	B案	11.3	22,599,405		1,015	119		2,635	389		4,255	578
	C案	12.7	25,362,431		1,058	162		2,678	432		4,298	621
東予地区	A案	3.8	11,325,444	1,015	1,015	0	2,419	2,635	216	3,985	4,225	240
	B案	4.7	13,976,810		1,058	43		2,678	259		4,298	313
	C案	5.1	15,232,224		1,058	43		2,678	259		4,298	313
丹原地区		—			1,220	—		2,840	—		4,460	—
小松地区		—			1,220	—		2,840	—		4,622	—

※参考1 各地区水量別料金比較グラフ(家庭用13mm 単位：円)



※参考2 愛媛県下11市料金比較(家庭用口径13mm、1月20m<sup>3</sup>使用の場合 単位：円)



#### (2) 各地区案の組み合わせ【H30年度料金収入試算】

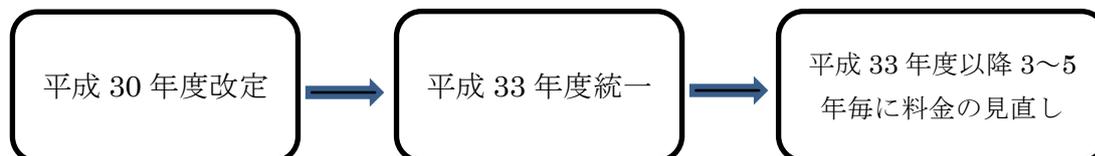
(単位：%、千円)

	①案	②案	③案	④案	⑤案	⑥案	⑦案	⑧案	⑨案
西条地区	A	A	A	B	B	B	C	C	C
	219,751	219,751	219,751	221,893	221,893	221,893	224,656	224,656	224,656
東予地区	A	B	C	A	B	C	A	B	C
	308,409	311,061	312,316	308,409	311,061	312,316	308,409	311,061	312,316
丹原地区	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	114,133	114,133	114,133	114,133	114,133	114,133	114,133	114,133	114,133
小松地区	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	127,262	127,262	127,262	127,262	127,262	127,262	127,262	127,262	127,262
計(A)	769,555	772,207	773,462	771,697	774,349	775,604	774,460	777,112	778,367
現料金試算(B)	737,772	737,772	737,772	737,772	737,772	737,772	737,772	737,772	737,772
増減計(C=A-B)	31,783	34,435	35,690	33,925	36,577	37,832	36,688	39,340	40,595
改定率(C/B)	4.3	4.7	4.8	4.6	5.0	5.1	5.0	5.3	5.5
改定率順位	9	7	6	8	4	3	4	2	1

## 4 水道料金統一プランについて

### (1) 料金統一に向けた基本的な考え方

#### ①料金統一の時期について



#### ②料金体系の統一

用途別（東予）	項目	口径別（丹原・小松）
使用用途により、料金を決定する方式	定義	水道管の口径の大きさを決定する方式
・負担能力に応じた料金設定 ・用途の区分が不明確	性質	・理論性、公平性に優れる ・料金体系が明確

#### ③料金算定方式について

水道料金の設定にあたっては、事業運営に必要な経費に見合った料金水準を定める総括原価方式による料金算定を基本とすることとされている。

**総括原価方式とは、料金総収入額＝総括原価（営業費用※1＋資本費用※2）**

##### ※1 営業費用

人件費、薬品費、動力費、修繕費、委託料、減価償却費、その他維持管理費等

##### ※2 資本費用

支払利息、資産維持費（事業を維持するために必要な利益）

#### ④水道料金配分（基本料金、従量料金）の考え方について

水道料金については、基本料金と従量料金とに分けられている。そのため、原価をその性質によって基本料金に充当するものと、従量料金に充当するものとに区分する。主な考え方は以下のとおりである。

##### 【ア】基本料金に充当する経費（需要家費）

検針関係経費、量水器関係経費など使用水量に関係なく、需要家（使用者）がいることにより生じる経費。

【イ】基本料金と従量料金の両方に充当する経費（固定費）

減価償却費や支払利息、人件費など固定費は、使用水量に関係なく必要とされる経費であることから基本料金に充当すべきであるが、そうした場合、基本料金が高くなってしまい現実的でないことから、使用者の負担にならないよう、基本料金と従量料金にそれぞれ配分する。

【ウ】従量料金に充当する経費（変動費）

薬品費や動力費のうち従量料金に当たる部分など、概ね使用水量の増減に比例する費用である。

(2) 平成 33 年度統一（素案）

① 資産維持費を算入した場合

口径	基本料金	基本水量	従量料金
13mm	1,400	10 m <sup>3</sup>	382
20mm	3,300		
25mm	5,400		
30mm	8,100	なし	
40mm	16,700		
50mm	31,700		
75mm	87,700		
100mm	184,100		

② 資産維持費を算入しない場合

口径	基本料金	基本水量	従量料金
13mm	1,400	10 m <sup>3</sup>	223
20mm	3,300		
25mm	5,400		
30mm	8,100	なし	
40mm	16,700		
50mm	31,700		
75mm	87,700		
100mm	184,100		

③ 丹原・小松地区水準に合わせた場合

口径	基本料金	基本水量	従量料金
13mm	840	8 m <sup>3</sup>	150
20mm	1,080		
25mm	1,600		
30mm	1,700	なし	
40mm	2,700		
50mm	4,800		
75mm	11,000		
100mm	21,000		

※ 総括原価方式による、料金設定を行った場合、現在の料金水準とかけ離れたものとなってしまい、現実的ではない。しかし、必要な費用を料金で回収できない状態が続くと、結果として、安心して安全な水を供給するという水道事業本来の使命が果たせなくなってしまう。平成 33 年度の料金統一時後、経営の現状を注視しつつ、将来の施設更新費用を見据えた料金改定を行う必要がある。